

# 第2号

定価1年間300円  
組合員の購読料は  
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1  
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490  
発行責任者 石橋英敏  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

## 「とにかく、もっと聴きたかった！」楠氏講演

「具休例が見えた」「目の前の子どもをイメージしながら聴いていた」「もっともお話が聞きたかった」などの感想が寄せられ、好評を博しました。(講演内容は次回より連載)

分科会では、今抱えている悩みを吐露しながら、さらに具体的な実践交流の場になりました。養護分科会では、**閉部の先生と健診や書類事項、講演の内容を交えた特別支援学級や発達障害について情報交換できて良かった**、特別支援分科会では**いろいろな学校の**

した。五二名の教職員が参加しました。スポーツ交流の後、講演、そして、四つの分科会に分かれて交流しました。

午前中、パークゴルフ大会があり、青年部を中心に熱戦が繰り広げられました。午後からは、北九州市立大学・楠凡之教授の講演「発達障害の子どもと歩む学級づくり」がありました。



ナイスショット!



講演をする楠凡之教授

檜山教職員  
の集いが五月  
一〇日、厚沢部  
町多目的交流  
広場及び檜山  
地域人材開発  
センター(まな  
びっく)を会場  
に開催されま

# スタートラインだ！ 檜山教職員の集い

先生の実践や子どもたちの様子を  
知ることができ、今の自分の指示  
の仕方についても振り返ることが  
できた。楠先生と語る分科会で  
は、**自分が困っている**と思っ  
ていた児童は、周りに**もたくさん**  
**いて、同じように困っていたり、悩ん**  
**でいたりしている**ことを知って少  
しホッとしました。などの感想が  
ありました。また、一年目の若い  
先生からは、**不安があり、このよ**  
**うな場はありがたい**など、不安  
を抱える中で、「学ぶ場」を求め  
ている声もありました。専門的に  
学ぶだけでなく、今の思いを語り  
合いながら共有することの大切  
さも確かめられた「集い」になり  
ました。



挨拶をする佐藤亮樹青年部長

「みんな、同じように困っていたり、  
悩んでいたたりするんだあ・・・」

講演の感想1

具休例が多い話をいただき、受け持っているクラスの子達を思い浮かべさせながら、勉強させていただきました。“その子の思いを受けとめてから”どのようにアプローチしているかを考えさせられました。



今日の楠先生のお話から「そういえばそんな子いたなあ」「自分はそんな風にできなかったなあ」と反省しつつ、今後につながることも学べました。また、若い先生方がメモしながら聞いているのを見て、悩みながら学ぶ機会を求めているのかなあと感じました。このような貴重な機会をありがとうございました。

今まで、自閉的な傾向のある児童との対応をしてきた中で、自分なりに感じたり、心掛けてきたことを思い浮かべながら、楠先生のお話をきかせていただきました。子どもの発達過程をふまえて、具体的な事例を出しながら、お話いただいてとてもわかりやすかったです。もう少しゆっくりに聞けたら、さらによかったと思います。子どもの気持ちを受けとめ、わかってもらえてるんだという安心感をもってもらえるように心掛けていきたいです。

今日は、本当にありがとうございました。情報を的確にお伝えできませんでしたが、答えていただき、感謝しています。この会に参加でき、本当に良かったです。現場で日々頑張りたいと改めて思いました。

すごくわかりやすい部分が多かったです。自分が手探りで色々やってきたことばかりなのですが、子どもの発達のことや、大きな枠をいただいて、いろいろな手立てが思い浮かぶ手掛かりになりそうです。もっともっとお話し聴きたかったです。自信を持って取り組めることが増えそうです。

今まで関わってきた子どもたちの顔が浮かんできました。“なぜ、どうしてこうなるのか”を考えて関わっていくことがこれまでにあり、なかなか糸口が見つからず、疲れ果てたことがありました。今日は、新しい視点をつくっていただけたように感じました。

今日は貴重な話をさせていただいて、大変勉強になりました。子ども一人ひとりの特性を理解し、クラス全体で取り組むように今後取り組んでいきたいと思います。これからも多くのことを勉強して、頑張っていきたいと思います。

**講演の感想2**

時間があっという間に過ぎました。先生のお話の中で、あーそうそう、そういう子いるいると思う場面がたくさんありました。これからの子どもたちの見方やかわり方に参考にさせていただくことが多くあり、勉強になりました。参加して良かったです。有意義な時間をありがとうございました。また機会があれば、もっと深くお聴きたいと思いました



私自身、思い当たる節があるかも…。①見通しが持てない②部分への拘り③同時遂行機能の困難さ…だから家事が苦手…。「自分の思いを出せること」の大切さを改めて感じました。その上で自制心の獲得なのですね。「異質な存在」のこの中にある「同じ」ところの発見から共感関係が生まれるという部分に納得しました。

ASD児の行動の背後の「わけ」を理解して、その子どもの見え方、感じ方を読み取ることの大切さを学びました。

担任している子を思い浮かべながら話を聴くことができました。中でも、「行動の背景を理解し、Viewを読み取る」という話が今後の個別指導や学級づくりで意識していきたいところだと思いました。青年部の活動を聞いて、もう青年部ではないけれど、参加したいな～と思いました。みんなで盛り上げていきましょう！

「多くはうまくいっている」  
様々な世論調査や全教が行った教育委員会からのアンケートからも、国会の参考人発言からも、未熟なところもあるけれど、どうしても『今』急いで変えなければならぬというものは、ないことは明らかです。下村文科大臣でさえ、「多くの教育委員会はうまくいっている」と聞いているし、私も思う」と国会で答弁しているのです。

教育を支配し、教職員を「時の権力者」の手先にすることを可能にする布石!

**「教育委員会制度改悪」の矢は、なぜ「今」放たれたのか**

「なぜ、『今』なのか」

「それなのに、なぜ、急いでやるの？」という疑問が当然湧いてきます。その疑問に対して、「何かあったとき、責任の所在が明確でないから」「形骸化しているから」といっても、今回提案されている改定案でも同じです。確かに、今の教育委員会制度は、未熟なところは歪めませんが、それを民主的で専門性の高いものに成熟させようとするものでもありません。それなのに「なぜ、今なのか？」です。

「暴走列車」の行く先は・・・

そう考えていくと、それは、「今」やりたい、いや、「今」しかならないからでしょう。国会の圧倒的多数で、「暴走」できる今しかできないからと考えるのが自然の流れです。その行き先は、「戦争する国」「大企業に都合のいい人づくり」と各紙論評も指摘しています。今回の教育委員会制度改悪は、明らかにそこへ向かう一つの通過点です。

「歯止め」に穴があく

今回の改悪案の主な点は、教育における首長の権限が強くなることです。教育課程・内容に踏み込めることが可能になり、教育長の任命権も持つことになり、また、時の政府（国）の振興計画も照らし合わせ参考にしなければならず、運用次第では、まさしく、時の権力者が政治介入できることになり、まさに、戦争の「歯止め」に穴があく改悪なのです。

教育の「中立性」「専門性」を蔑ろに

この「穴」は、

教育の「中立性」「専門性」を蔑ろにし、特定の政治勢力や政治家に振り回される懸念が広がります。戦前のように、愛国心教育が貫徹され、「お国のために戦争に行ける人づくり」、大企業に都合のいい「物言わぬ人づくり」へ向かう足がかりにできるものです。

「戦争をする国づくり」へ

このような法案は、暴走できる「今」しか通せないでしょう。そう考えると、「なぜ今なのか」という問いとの整合性がとれ、教育委員会制度改悪は、「戦争をする国づくり」「大企業に都合のいい人づくり」の歯車の一つということが見えてきます。

「教え子を再び戦場におくらない」

全教も、連日、国会を傍聴し、議員会館前で集会をし、座り込みをしています。道教組も、札幌の街頭でこのことを訴え、署名を集めています。檜山教組も署名を集め、一〇九筆集まりました。「おかしいことはおかしい！」と声をあげ、「教え子を再び、戦場におくらない」の旗の下、あきらめず、肅々とたたかっていくことが重要です。



国会前でシュプレヒコール



国会前で集会